

南無阿弥陀仏は  
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobiiryo.jp/>  
発行人 岸本 秀一  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



## 「この百年」

ところが一九四五年（昭和二十年）三月十日東京大空襲に遭い、西徳寺も庫裡が炎上して、本堂も焼夷弾により内部を焼失してしまいます。

昭和三十一年西徳寺は「親鸞聖人七百回大遠忌法要」の記念事業に着手し、昭和三十五年五月までの三年間に、鉄筋コンクリート二階建の寺務所兼庫裡（現在の第一会館の場所）、本堂二階室内墓地、本堂内の宮殿・須彌壇・御厨子などが完成しました。記念事業を通して、西徳寺の戦後の復興が確実に整いはじめたのです。

一九六〇年（昭和三十五年）五月一・二十八日二十九日の二日間にわたりて「親鸞聖人七百回大遠忌法要」を勤修しました。この度「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」を迎えるにあたり先人のご苦労を偲ぶとともに、後の人へ法燈を伝えたく願うものであります。

一九二一年（明治四十四年）に西徳寺では「開山大師六百五十年大遠忌法要」を厳修しています。期間は十月三十日～十一月六日の八日間にわたりました。第十一代住職 聞信院釋曉覚法師のときです。それから十二年後、師は急逝されます。そして三ヶ月後、一九二三年（大正十二年）九月一日関東大震災が起きたのです。西徳寺の堂宇も灰燼に帰しました。住職を失い、続いて堂宇を失い、御門徒の八割を失ったのです。門信徒一丸となつての西徳寺再建の努力は、ついに昭和五年実を結び、現在に至る本堂伽藍が完成するのです。

# 群生海

## 「後を継いで欲しい」

台東区在住 手島 誉浩さん



今回は台東区龍泉にある手島歯科医院の手島誉浩さんにお話を伺います。

### 後を継ぎたくなかった

歯科医師は私で七代目になるんですが、昔は後を継ぐのが嫌で、美術の先生になりたかったんです。でも歯科医以外の道は用意されてなくて、父からの強い勧めもあり、歯科大に行くことに決めました。卒業後に就職した歯科医院では、就職というより修業に近く、教科書に書いてある事が実際の臨床には殆ど役に立ちませんでした。なので睡眠時間を削り、模型を使った練習の日々でしたね。その後、築地の歯科医院で院長を任せられ、すごく忙しかったのですが、市場の近くということもあり、色々な人を診させてもらいました。

### 父の死

そんな中、父が急に亡くなつたんです。父の診ていた患者さんは日に二、三人だったので、閉めようかとも考えたんですが、「後を継いで欲しい」という声をいただき、最初は

築地での診療が終わってから六時から九時まで、患者さんを診るようになりました。

その後も皆さん

が力になって下さり、患者さんも増えたので、少し場所を移して開業することになりました。

築地に行っていた時の名残で、今も九時まで診療しているんです。

### 信頼関係

患者さんとのコミュニケーションは大事ですね。大学で患者さんと話をする訓練もするんです。きちんと説明をして治療しないと後々トラブルにもなりますし、信頼していない人に治療されると痛くもないのに痛くなることがあるんです。医療機関はただ診療するだけじゃなくて患者さんが行きやすく、気軽に集まれる場所ということも必要だと思います。

お寺も気軽に人が集まる場所といふことが必要なではないでしょうか。そういうことが地域のつながりになるのかなって思います。

昔は嫌がつたんですけど、今になつて色々なご縁がありがたいなつて思えるようになりました。

(聞き手 仲井 真裕)

真宗では位牌ではなく法名帳を用います。

位牌とは、故人の靈魂を閉じこめる依代ようちやとして中国から伝わり、礼拝の対象でもありました。それに

対して真宗は、法名帳や位牌ではなく阿弥陀如来を礼拝します。

法名帳は一日から三十一日までの日付が入つており、故人の命日の日に法名を記します。これは位牌と違ひ記録帳として用いられ、親族ではない故人も記することができます。

たとえ法名が書かれていない日でも毎日めぐります。そうすることで私達を日々仏前に導き、念佛にふれる機縁を与えてくださつています。

法名帳はただの記録帳ではなく、それを通して仏法に遇うことができる大切なご縁になるものなので

す。

(蓮井 邦宗 記)

なん5で? 「法名帳」  
ほうみょうちよう

十二光の四番目は、無対光で、他

と比べようもなく勝っている光です。

親鸞聖人は、無対光について、「清浄

光明ならびなし 遇斯光のゆえなれ

ば 一切の業繫ものぞこりぬ 畢竟

依を帰命せよ」(阿弥陀仏の清浄な

光は、他に並ぶものがない。この光に遇えば、無始以来の悪業の束縛から解放される。総ての人々の究極のようじどころである阿弥陀仏を、帰依しようと和讃されます。

「清淨光明ならびなし」と讃えら

れる阿弥陀仏の光は、「貪欲の罪を消さんれう(料)に清淨光明といふなり」と左訓されます。われわれは、所有欲の満足にのみ目をむけて、生きる喜びを見忘れているといわれます。

阿弥陀仏の清淨な光は、私利私欲が自分と世界を汚染する罪であること徹底して照らしだし、「己よければすべてよしとする心を素材として、本当の自分に出遇わせるといわれます。

決方法はありません。

しかし、業を尽くす生き方は、業に縛られている自分からは出できません。それで、「畢竟依を帰命せよ」

らわれから解放されるといわれます。われわれは、自分の業(行為)で自分が縛つてもがき苦しむのですから、その縛りを解くには、業の事実に目を開いて、自分の業を尽くすしか解

と左訓されます。つまり、畢竟依への帰命、それはいつも物欲しげで不満をため込む心を突破して、阿弥陀仏のめし(よびかけ)にしたがつて、あること自体に身を据え満足せよという勅命であると、教えられるのです。

五番目は、光炎王で、煩惱を焼き尽くす光です。親鸞聖人は、「仏光照曜最第一」と左訓されるように、お供えものまで自分の都合をお願いする者にも応えてくださる、阿弥陀仏の別名です。お供養にも結果を求める傲慢な身は、大應供の阿弥陀仏に帰依するほかに、すべてをご縁といただく生活はないと教えられるのです。



## 正信偈の話⑧

普放無量無辺光、無碍無対光炎王、清淨歡喜智慧光、  
不斷難思無称光、超日月光光照塵刹。一切群生蒙光照。

松井憲一

(あまねく、無量・無辺光、無碍・無対・光炎王、清淨・歡喜・智慧光、かむ  
不斷・難思・無称光、超日月光を放って、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る。)

の迷いに沈む人々の姿を照らし救われる。すべての人々の供養に応ずる三途は道をあらわします。地獄は火に焼かれることから火途(かず)といい、餓鬼は刀で責められるから刀途(とうず)といい、畜生はお互いに食い合ふことから血途(けちず)といいます。ともに、自分中心の思いに汚染されて、優しさやいたわりや恥ずかしさをなくして生活することで、「地獄だな心通じぬ人たちがいやでも同じ家に住むとは」と、人と人との間に生きる人間が、その間を見失った悲惨なあり方です。

この三途にどっぷり漬かっているわれらに、「大應供を帰命せよ」といわれます。大應供は、「弥陀如来なり」と左訓されるように、お供えものまで自分の都合をお願いする者にも応えてくださる、阿弥陀仏の別名です。お供養にも結果を求める傲慢な身は、大應供の阿弥陀仏に帰依するほかに、すべてをご縁といただく生活はないと教えられるのです。

けたり 三塗の黒闇ひらくなり  
大應供を帰命せよ」(阿弥陀仏の光の輝きは、最も勝れて、光炎王仏とも名付けられる。地獄・餓鬼・畜生

の輝きは、最も勝れて、光炎王仏と

も名付けられる。地獄・餓鬼・畜生

# 「山門の言葉」

知らないと  
言えない私

これは私の感覚だが、今まで学校や社会で学んできた知識や経験については、自信を持つているように思う。特に自分の得意分野に於いてはかなりの自信があるといつても過言ではない。その事について尋ねられたならば、「知らない」とは言わないだろう。絶対の自信があるからである。

それともう一つ「知らない」と言えない理由もあるように思う。それは、自分自身を悪く見られたくないという思いが根底にあるからだろう。

年齢と共に立場や環境が変わり、いつしか「知らない」、「わからない」という事が容易に言えなくなってきたように感じる。勿論それぞれの立場で責任を持っているのだから、そのような事が言えないのは当然である。私の事でいえば立場は僧侶、年齢は三十代。世間的にはもういい大人

として見られているだろう。そうす

ると、門徒さんからの問には何が何でも答えなくてはならないと思つて

ている。

しかし、よくよく考えてみると、自分が世間からどのように見られているのかというのは、私が勝手に思い描いている私である。生活の中で関わっている方々や門徒さんからは、時折厳しい御意見も頂戴するわけであるから、周りから見た私は自分の思い描く私とは違うという事がはつきりする。



今私達が皆様と共に学んでいる仏教とは、ただ単に仏教の知識を身に付けるだけではなく、自分自身が一

体どのような在り方をしているのか

という事を知らされるのである。気づいてみれば、周りからの評価ばかり

を気にして、頭でっかちになつてはいないだろうか。そのような在り方

をしている私が、仏のはたらきによつて照らし出される。そこに「知らない」と素直に教えを求める事が勧め

られているように思うわけである。

(大橋伊知郎 記)





- 2月 10日 教行信証『信巻』に聞く(第76回)  
講師 宗 正元師
- 2月 18日 定例聞法会
- 2月 21日 仏教青年会座談会
- 2月 25日 混声合唱団「エコー」練習  
同行会「正信偈の教え」に聞く  
法話 仲井 真裕
- 2月 26日 城南ブロック会聞法会  
(太子堂 レンタルスペース SF 参加者19名)
- 2月 27日・28日 宗祖忌
- 3月 3日 混声合唱団「エコー」練習
- 3月 4日 城北ブロック会聞法会  
(王子 北とぴあ 参加者18名)
- 3月 6日 仏教青年会レクレーション  
(ボウリング大会 参加者27名)
- 3月 7日・8日 中興忌
- 3月 7日 婦人会聞法会  
本山リーフレットに聞く「変わる時代」
- 3月 8日 責任役員会・総代会
- 3月 10日 評議員会定例役員会  
同行会「正信偈の教え」に聞く  
法話 岸本住職



## えこお志お礼



滋賀県 西福寺 様  
三重県 東光寺 様  
品川区 木原 麗子 様  
江戸川区 形屋 顯弘 様  
中野区 木田 静代 様  
台東区 小林 浩子 様  
杉並区 安井 均 様  
荒川区 高嵩 博 様  
江東区 西村 吉正 様



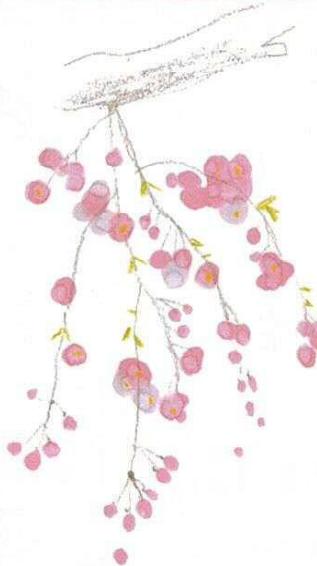
## 大遠忌法要について のお知らせ

### ◆境内は駐車禁止

4月28日(土)～29日(日)に勤修されます「大遠忌法要」ですが、受付用テント等を設置する都合上、境内を駐車禁止にいたします。ご迷惑をおかけしますが何卒ご協力の程お願い申し上げます。

### ◆懇志金について

両日にご参詣の皆様にはご負担をおかけしますが、懇志金は1口3千円以上にてお願い申し上げます。



## 掲示板

平成24年 4月

- 1日(日) 午後2時 中央ブロック会聞法会  
(湯島天神 梅香殿)
- 10日(火) 午前10時 仏具磨き
- 14日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習  
午後6時 同行会総会「正信偈の教え」に聞く  
法話 山崎 哲
- 17日(火) 午後7時 仏教青年会総会
- 18日(水) 午前11時 婦人会総会
- 19日(木) 午後1時半 教行信証『信巻』に聞く(第78回)  
講師 宗正元師
- 21日(土) 午後1時半 定例聞法会  
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 28日(土)・29日(日) 親鸞聖人  
**750回大遠忌法要**

### 編集後記

3月2日から5日までの4日間、本山差向布教のため滋賀県湖東にある仏光寺派3か寺を巡りました。初めての経験なのでとても緊張しましたが、ご門徒の方々に温かく迎えていただき助けられました。

ご門徒のほとんどが農家の方で、これからよいよ農作業が忙しくなる矢先のご法座にもかかわらず大勢のご参詣でした。とても熱心にご聴聞くださるお姿に触れ、身構えてかしこまっていた自分の思いよりも先に、念仏を申してこられた人々の歴史があることをあらためて知らされました。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobiiryo.jp/>